

三心を磨く

学校だより NO. 23

平成29年10月18日(水)発行

須崎市立 東 中学校

文責：金井 勝久 (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

10月の校長講話

「一人では行けない世界」と「最後までやり抜く力」

みなさん、おはようございます。10月も半ばを過ぎ、日が暮れるのがとても早く感じる季節になりました。感動の東祭から2週間あまりが過ぎました。みなさんの心の中には、今、どんな余韻が残っているでしょうか。

私は音楽会で、3年生が見事に歌い上げた学年合唱「信じる」が、自分へのメッセージとして響き渡り、これから自分が進むべき道を模索している姿が、熱く心に残っています。2年生、1年生も素晴らしい合唱を響かせてくれました。1年生の男子は、変声期の真ただ中であり、とても苦しかったと思いますが、そのような中で精一杯歌う姿がとても印象的でした。2年生は、昨年度から続けてきた合唱に更に磨きがかかり、学年一丸となった合唱を披露してくれました。このように全校で、素晴らしい60周年記念音楽会にしてくれました。

また、本部会の役員をはじめ、全校のみなさんが各委員会での仕事に本当に責任をもって熱心に取り組んでいる姿が、とても印象的でした。また今年は、チャレンジランキングも生徒会主催で、サルビアチーム、コスモスチームに分かれ、盛大な応援合戦のもと、迫力ある熱戦が繰り広げられました。それぞれのチームの応援団長を中心に、一致団結して勝利を収めようとする姿は、中学生らしい澁刺とした姿であり、

従来までの単なる学級対抗戦に比べ、3年生が1・2年生の後輩をリードして戦う、素晴らしい姿がありました。このように、全校生徒が心を一つにし、精一杯、生徒会スローガ



ンを具現化しようとした姿に、心から拍手贈りたいと思います。2日間の感動が、そして半年間の苦労が凝縮されたあの瞬間、東中学校全員が強い絆でしっかりと結ばれており、まさに「絆 sashinで築け 184人の舞台」であったと思います。全員で創り上げることは、大変なことです。しかし、とても素晴らしく、素敵なことだと、しみじみ思いました。一人では自分に甘えてしまい、途

中で投げ出してしまうことも多いのに、みんなと一緒にならできてしまう。質の良い集団をめざしていくと、そこには時として思いがけない力が生まれることがあります。一人では決して行けない世界を見ることが出来ます。一人一人が、自分の所属する集団をよくしようという気持ちに包まれたとき、実はそれは自分のためにもなっていくことを忘れてはなりません。良い集団は誰かが創ってくれるものではありません。自分が創る一員であることを忘れないでください。まさに、自分が創る物語です。

また、先週の木曜日に行われました「市内卒業学年親善音楽会」では、3年生が見事な歌声を披露してくれました。

教育長の小林先生からは、「合唱の良さは人数の多さとは関係ないということがよくわかる、素晴らしい合唱でした。3年生の、「信じる」は、



60周年記念音楽会から、さらにもうよくなったなあと思います。私も、3年生のみなさんと一緒に歌っていました。ステージに行って、あなた方と一緒に「私は信じる」と最後のフレーズを歌いたかった。よくやった。」という講評をいただきました。私も、観客席で聞いていて、3年生のみなさんの歌声が、本当に心に訴えるように聞こえてきて、涙が止まりませんでした。3年生のみなさんが、今の自分たちにしかできない合唱を作り上げてくれたことに、心から感謝と拍手を贈りたいと思います。ありがとうございました。

このように3年生をはじめ、全校のみなさんには、質のよい集団を創り上げる素晴らしい力があります。みなさんは、自分では気づいていないかもしれませんが、これだけのことを成し遂げることができる力をもっています。先ほど話したように、全員で創り上げることは、大変なことです。しかし、とても素晴らしく、素敵なことです。一人では自分に甘えてしまい、途中で投げ出してしまうことも多いのに、みんなと一緒にならできてしまいます。第40回東祭、市内卒業学年親善音楽会を通して、みなさんの集団としての力を見せてもらいました。しかし、ここで立ちどまってもう一度考えなくてはいけないことがあることに、私は気づきました。それは、前々から少しずつ気になっていたことです。それは、みなさん一人一人に、「物事を最後までやり抜く力」が、身についているかということです。

これは、私からみなさんへの「問い」です。

自分の責任でやらなくていけないことを、最後まで責任もってやり遂げていますか。

どんなに疲れていても、毎日の宿題や自主学習をやり遂げていますか。

三心清掃では、一人になりきって無言清掃ができていますか。

集団としての素晴らしい力を発揮できるみなさんです。これからは、集団としての力を発揮すると同時に、自分自身の「最後までやり抜く力」を磨いてほしいと思います。